

令和3年度 学 校 評 価 書

大津市立石山小学校

大津市の6つのキーワード 1. 主体的・対話的で深い学び 2. 道徳教育の充実 3. 体力づくり 4. 指導改善(組織的・計画的) 5. 育ちと学びを支える連携 6. 組織的体制の充実

学校目標 「明朗 健康 自主自立」

今年度の重点目標 1. 基礎学力を確実に定着させる 2. 人間関係形成力を育成する 3. 運動習慣を育成する 4. 感染症対策の迅速かつ丁寧な対応と教育課程の円滑な実施

大項目	中項目	小項目	令和元年度		令和2年度		令和3年度		現況	学校運営協議会委員の評価とご意見	
			小項目の平均	中項目の評価	小項目の平均	中項目の評価	小項目の平均	中項目の評価		評価	ご意見
主体的・対話的で深い学び		支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2.2		2.6		2.3		授業や厳選した行事、学級活動において互いに認め合い、学び合う姿勢を大切に実践を重ねている。また、感染症対策から満足とはいかないまでも方法を工夫しながら授業研究、研修会を続けた。ICT活用については、コロナ禍での有効なコミュニケーションツールの一つとして活用していけるよう研究を進めている。また、扱う上での責任、情報モラル教育も重要と考えている。 高学年での長期となる学級閉鎖等では、タブレットによる自宅学習を行っている。低学年では、持ち帰っているドリルや教科書による学習を行っており、長期の場合にはプリントも併用している。	2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染不安が続く中での学びの保障、学習方法の工夫など、先生方の日々の努力に感服している。</li> <li>・参観や寺子屋でみた子どもたちの様子から互いに学び合おうとする姿勢が感じられた。</li> <li>・タブレットを有効に使い、学級閉鎖等に対応できるようにしていただきたい。タブレットが低学年に行き届いていない。また、家庭にネット環境等がない児童らへの学習はどうしていくのか検討が必要である。</li> <li>・小中交流によってICT活用も生きてくると思うが、実施が難しい状況にある。</li> <li>・ICT活用については、情報を正しく理解する力とモラルを身に付けることが大切である。</li> </ul>
		協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	2.2	2.2	2.4	2.4	2.2	2.2			
		主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	2.3		2.2		2.1				
道徳教育の充実		生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	2.3		2.7		2.5		地域の方々と積極的な交流をもつような体験学習の実施を控える状況が続いている。できる形での、地域の人・もの・自然とのふれ合う機会を設定するよう努めている。人権意識を高く持つための指導は平日頃から指導している。いじめ防止対策としては、相手の気持ちを考えること、相手のいやがることをしてはいけないことを発達段階に合わせて繰り返し指導している。 道徳参観は、地域別に授業参観を実施する中で1学期と3学期に分けて実施予定であったが、3学期の実施は中止した。	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での地域とのコミュニケーションは難しいと思われる。子どもたちが普段から外で遊ぶことをしていれば地域の人とのコミュニケーションがとれると思う。</li> <li>・体験や交流の機会は減っているが、普段の生活の中から子ども同士は思いやりの気持ちが育っていると感じられる。</li> <li>・「物を大切に使うための工夫をする」ことをもっと大事に考えられるようになってもらいたい。すぐに新しいものと交換するのではなく、まだ使えるのではないかと考える考えをもち、その方法を発見していってほしい。</li> <li>・トラブルを起こさせない教育ではなく、起きた時にどう解決するのか。どちらが良い悪いではなく、集団としてどう乗り越えていけるかが重要だと思う。</li> <li>・アンケート結果からいじめに対する意識が高いと思う。</li> <li>・石山lism連携で豊かな人・自然等との関わりを通して自己肯定感を育んでいきたい。保幼→小→中と連携した取り組みができると良い。</li> </ul>
		道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	1.8	2.2	1.8	2.2	1.9	2.0			
		保護者等への道徳科の授業公開					1.8				
体力づくり		たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2.1		2.3		2.0		感染症対策が優先され、運動内容に制約がある中、安全な実施方法を検討しながら実施している。昨年度よりは体育らしい体育ができるスタートではあったと言える。また、非常に実施が難しい中、プールの実施をした。控えながらも久しぶりの歓喜の声が聞けた。緊急事態宣言下での2学期のスタート時には、距離を保つことや手洗いの徹底について改めて指導し、自らの命は自ら守ることができる意識・力の育成に努めた。児童のアレルギーや病気については、保護者と密接に連絡を取りながら、職員間で情報を共有し、児童の健康・安全を守る体制づくりを行った。	2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が長引くと人間関係づくり、体力づくりが心配である。学校では、学習・運営にいろいろと工夫しながら尽力いただき感謝している。</li> <li>・大変な状況下、プールの実施は良かった。</li> <li>・夏季における感染症対策(マスク着用)と熱中症予防の両立は難しいが配慮を願う。</li> <li>・子どもたちに自分の命と健康を守る力が身につくことはとても大切なことである。幼児期から発達に応じた取組を大切にしたい。</li> </ul>
		体力づくりを推進する運動実践	2.1	2.1	2.1	2.2	1.9	2.0			
		体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2.1		2.2		2.0				
指導改善(組織的・計画的)		学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2.3		2.3		2.2		児童が協働しながら主体的に学びを深める授業を目指し、各学年で研究授業を行った。重視したい話し合い活動は、その必要性、実施の時間、子ども同士の距離・方向など感染症対策を考慮し設定した。また、教員同士の参観や研究会も実施方法の工夫、できる限りでの実施となったが、主体的に学ばせる展開のあり方について深く研究をすすめた。今年度も教科担任制や少人数学習を行い、協力的な指導を充実。eラーニングやプログラミング学習の実施、通常授業でのタブレットの活用等ICT活用も進んでいる。学力向上にかかる研究推進部にICT推進委員会を設置、活用方法の開発や全教員の活用能力向上に努めている。	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の定時退勤日をもっと多くできないか。</li> <li>・教員の人員的に大変な部分もあるかと思うが、少人数学習で習熟が深まる子どもも多いと感じるため、今後も充実させてほしい。</li> <li>・発達段階によって異なるが、話し合いに必要な知識を十分に理解していないと話し合いがただのおしゃべりになったり遊びになったりすることがある。一定の知識の付与も必要である。</li> <li>・様々な取組を行い、教師の指導力向上、学校の組織力向上に努められていると思う。</li> <li>・若手教員が増えている中、課題である人材教育はとても重要である。</li> <li>・コロナ禍だからこそその授業の工夫がされていると思う。</li> </ul>
		教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2.2	2.1	2.3	2.3	2.2	2.2			
		働き方改革の取組と教育活動の質の改善	1.9		2.3		2.1				
支 育 ち と 連 携 を	家庭・地域との連携	保護者の子育てに対する積極的な支援	2.5		2.6		2.0		例年、子どものよりよい成長を願う共通した思いを土台として、生徒指導、いじめ対応、教育相談を実施してきた。また、保幼小中の連絡を密接に取り合い、縦のつながりを意識した課題解決やスムーズな接続ができるよう努めている。今年度は、昨年度実施できなかった授業参観を、地域別で実施する計画をした。しかし、直接ふれあうような校種間交流や地域連携、外部講師を招くなどの活動は、まだまだ控える状況が続いており、一部オンラインで実施したが、多くは延期・中止を余儀なくされている。今後も、保護者の不安や相談に誠実に対応できるよう、現状を踏まえながら学校へ足を運んでいただける機会やその方法を模索していく。参観の中止に伴い、ホームページによる各学年の取組を発信している。地域の方には、毎日の見守りや焼き芋大会の催しなど、学校生活を支えていただいた。	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文庫活動など、地域の方々の協力で長く続けていることは、子どもたちの居場所の一つとなっている。</li> <li>・寺子屋は毎年続けていきたい。</li> <li>・連携や集う活動において得られていたものが、失われているのはコロナ禍において仕方がないところもある。これからのあり方など学区内の連携がとれていけば良い方向に進むと思う。</li> <li>・感染症対策との兼ね合いでできる限り実施いただければと思う。現在は、連携しながらできていると思う。</li> <li>・今後のあり方について工夫していく必要がある。一部の教員とだけでなく、広く交流できると良い。</li> <li>・コロナ禍、子どもたちの安全安心を第一に、できるときにできることを工夫して取り組んでいると思う。状況を見定めながら、学校間研修・連携も進めていけるとよい。</li> </ul>
		保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.5	2.5	2.0	2.4	1.8	2.0			
		防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2.4		2.5		2.2				
保幼小中の連携		子ども校種間交流や教員の出前授業	2.4		2.1		1.8			2.2	
		校種間の授業公開や合同研修会	2.6	2.4	2.2	2.1	1.6	1.7			
		保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2.3		1.9		1.6				
充 組 実 機 体 制 の 充 実	生徒指導・教育相談機能の確立	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	2.6		2.8		2.6		生徒指導、いじめ対策、教育相談等の担当者、管理職、養護教諭がそれぞれの立場から積極的に児童と関わると共に保護者との連携強化に努めている。個別の事案に対しては、関係機関やSC、SSWとの連携を図りながら個に応じた丁寧な対応を心がけている。特別な支援を必要とする児童についても、関係機関との連携のもと支援方法などを考え、関係者で共通理解していくことに努めている。今後も引き続き、保護者との情報交換やきめ細かい支援を心がけていきたい。	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に向けて、児童と保護者の安心につながる引継ぎを丁寧に行っていきたい。</li> <li>・子ども、保護者ともに丁寧に対応していると思う。</li> <li>・子どもの健全育成に対し、学校を頼りすぎている面もあるのではないと思う。</li> <li>・難しい部分もあるが、子ども食堂をされている方や民生委員など地域の人材をもっと活用しても良い。</li> </ul>
		生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	2.6	2.6	2.8	2.8	2.7	2.6			
		家庭・地域・関係機関との連携による指導					2.4				
		個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2.3		2.6		2.3				
特別支援教育の充実		組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2.3	2.3	2.5	2.6	2.4	2.4		2.5	
		関係機関と連携した相談体制の充実	2.4		2.6		2.4				
学校満足度		学校は楽しいですか			児童の学校満足度 2.6					2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生のほとんどが、学校が楽しいと回答しておりうれしく思う。</li> <li>・満足度が高く安心できる。</li> </ul>

※評価は、「3」・・・よくできた 「2」・・・できた 「1」・・・あまりできなかった 「0」・・・まったくできなかった